

線形代数 II 第 7 回 練習問題 (担当: 関口 良行)

所属: _____ 学籍番号: _____ 氏名: _____

注意: 答え合わせの際は, 色ペンを使うこと

1. $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 & -1 \\ 4 & 3 & -2 \\ 6 & 3 & -2 \end{bmatrix}$, 線形写像 $T: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $T(x) = Ax$ で定義する. 以下の問いに答えよ.

(1) $\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ -3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{u}_3 = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ -2 \end{bmatrix}$ は \mathbb{R}^3 の基底になることを示せ.

(解答例) $\dim \mathbb{R}^3 = 3$ なので, 定理より 3 つの 1 次独立なベクトルは \mathbb{R}^3 の基底になる. したがって, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ が 1 次独立であることを示せば良い.

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + c_3 \mathbf{u}_3 = \mathbf{0}$$

とおく. すると c_1, c_2, c_3 は連立 1 次方程式

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 \\ 3 & -3 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \end{bmatrix} = \mathbf{0}$$

の解になる. 行基本変形により

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 \\ 3 & -3 & -2 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

なので, $(c_1, c_2, c_3) = (0, 0, 0)$ を得る. よって, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ は 1 次独立である.

(2) $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ に関する T の表現行列を求めよ.

(解答例)

$$U = [\mathbf{u}_1 \ \mathbf{u}_2 \ \mathbf{u}_3] = \begin{bmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 \\ 3 & -3 & -2 \end{bmatrix}$$

とおく. すると, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ に関する T の表現行列は $U^{-1}AU$ となる. これを計算すると,

$$U^{-1}AU = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 4 & 1 & -2 \\ -3 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 3 & 1 & -1 \\ 4 & 3 & -2 \\ 6 & 3 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 \\ 3 & -3 & -2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

を得る.

裏へ続く

2. $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \in \mathbb{R}^n$ に対して, $\langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ が \mathbb{R}^n の部分空間であることを証明せよ.

(解答例) $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ とする. すると, ある $c_1, \dots, c_n, d_1, \dots, d_n \in \mathbb{R}$ があって,

$$\mathbf{x} = c_1 \mathbf{a}_1 + \dots + c_n \mathbf{a}_n, \quad \mathbf{y} = d_1 \mathbf{a}_1 + \dots + d_n \mathbf{a}_n$$

と書ける. よって, それらの和は

$$\mathbf{x} + \mathbf{y} = (c_1 + d_1) \mathbf{a}_1 + \dots + (c_n + d_n) \mathbf{a}_n$$

と書けるので, $\mathbf{x} + \mathbf{y} \in \langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ である. 次に \mathbf{x} のスカラー倍について調べる. $\lambda \in \mathbb{R}$ とすると,

$$\lambda \mathbf{x} = \lambda c_1 \mathbf{a}_1 + \dots + \lambda c_n \mathbf{a}_n$$

と書けるので, $\lambda \mathbf{x} \in \langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ である. これらより, $\langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は \mathbb{R}^n の部分空間であることが示された.

感想・要望など